

(2) 歯学部

歯学部を取り巻く環境は、今後の歯学教育のめざすべき目標「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」の提言や、教育内容のガイドラインとなる歯学教育モデル・コア・カリキュラムの導入、2005年からの共用試験の本格実施及び2006年度からの歯科医師臨床研修マッチングプログラムによる卒後研修制度の義務化等、急速に変化している。

このような状況に対応するために本学部では、

1. 卒業までに修得すべき基本的な知識を整理し、態度及び技能教育の充実を図る。
2. 課題解決型学習を推進し、課題探求能力、分析的評価能力を向上させる。
3. 研修歯科医として必要な態度を身につけさせる。
4. 歯科医師臨床研修を円滑に開始できるための基本的臨床能力を身につけさせる。

以上4点に基づいて、歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂や歯科医師国家試験出題基準の変更等に対応できるカリキュラム編成を行っている。

歯学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、歯科保健、歯科医療と福祉の連携・統合をはかる教育を推進し、人々のライフステージに応じた口腔の健康を守る医療人の養成をもって、地域社会ならびに国際社会に貢献し人類の幸福に寄与することを歯学部歯学科の教育理念とする。

① 歯科保健・歯科医療と福祉の連携・統合

高齢化及び少子化の影響を受けて、現在、歯科医療は大きな転換期を迎えている。21世紀の歯科医療は、高齢者や障害者の治療・予防・ケアを通じて、地域における福祉と密接な連携を図らざるを得ない。さらには、在宅の患者に対する訪問歯科ケアも重要性を帯びてきており、看護や介護・リハビリ関係者との連携もますます重要になってくる。したがって、歯学部では、高齢者歯科学・障害者歯科学・歯科医療福祉論等、時代に即応した新しい教育を行う必要がある。つまり、歯科医療を通じて、保健と医療と福祉の連携・統合を図ることが、本学歯学部の教育理念である。

② 生涯を通じた口腔の健康を守る医療人の養成

長寿社会の到来とともに、口腔疾患の予防と健康増進に対する国民の関心は、ますます高くなっている。これからの歯科医療は、患者の健康状態を心身の両面から総合的に把握し、顎口腔系疾患を全身的知見からとらえていかねばならない。したがって、これからの歯科医療は、一人一人の患者の生涯を通じた口腔の健康を守る社会的使命を担うことになる。地域社会との連携が要求される所以である。

歯学部 教育目的

歯学部歯学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と職業倫理を備え、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに、地域的および国際的視野から歯科医学の発展および歯科医療の向上に貢献できる歯科医師の養成を本学科の教育目的とする。

歯学部 教育目標

歯学部歯学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 人々のライフステージにおける口腔疾患の予防、診断および治療について基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療技術の修得
2. 歯科医師としての心構えと倫理観の涵養
3. 生涯にわたる研修の継続と自己開発能力・習慣の確立
4. チーム医療(保健と医療と福祉)における協調力と建設的な行動力の涵養
5. 地域的および国際的な視野の涵養

① 歯科医学・歯科医療に関する基本的な知識および技術を修得する。

科学技術の進歩発展による歯科医学の専門化及び総合化が進んでおり、歯科医療においても、総合的な診断・治療が求められている。それらに応じていけるように、歯科医学・歯科医療に関する基本的な知識及び技術を修得することが目標となる。

② 歯科医師としての心構えと倫理観を育成する。

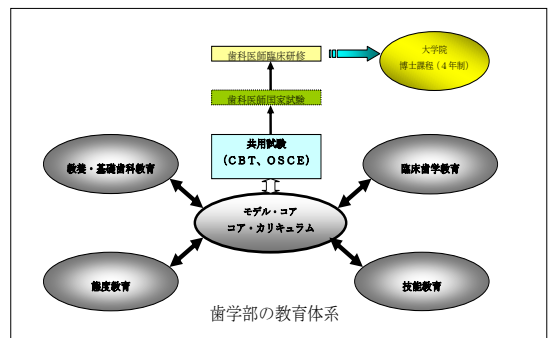
人々の健康に奉仕するという歯科医師としての確固とした心構えと倫理観・責任感を育成する。

③ 自己開発の能力と習慣を身につける。

日進月歩の医療界において、歯科医師として生涯にわたって活躍し続けるためには、たゆまずに研鑽を積んでいかねばならない。そのためには、自己開発の能力と習慣を身につけることが必要である。

④ 協調し建設的に行動できる態度と能力を身につける。

21世紀の歯科医師は、歯科衛生士や歯科技工士だけではなく、医師や薬剤師、看護師やリハビリ担当者、さらには福祉関係者とも協働していかねばならない。したがって、知識と技術と人間性を兼ね備えた能力を身につける必要がある。



### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

歯学部歯学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している(専門的実践能力)。
2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。
3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている(自己研鑽力)。
4. 多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる(多職種が連携するチーム医療)。
5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけている(社会的貢献)。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

歯学部歯学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 歯科医師として必要な基本的知識・技能・態度の修得をめざし、専門基礎科目および専門臨床科目の講義・実習を1年次～4年次に段階的に配当する。また、4年次における共用試験(CBT・OSCE)で基礎項目の評価後、5年次～6年次前期に大学病院、および地域での診療参加型臨床実習を行い、専門的実践能力を養成する。6年次後期には、知識・技能・態度を体系的・総合的に整理し、基本的資質・能力の養成を図る(専門的実践能力)。
2. 患者中心の医療を提供し法と倫理を遵守する人間性豊かな歯科医師の養成のために、医療倫理教育および医療コミュニケーション教育を1年次～4年次に段階的に編成する。これらの能力については、4年次における共用試験で模擬的・客観的に評価した後、5年次～6年次前期に配当する診療参加型臨床実習によりさらなる養成を図る。また、6年次後期にそれらを体系的・総合的に整理し、本学科が定めた歯科医師として求められる基本的資質・能力の養成を図る(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。
3. 研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続ける意欲と態度を有する人材の養成を図るため、歯科医学研究科目を編成し、実施する(自己研鑽力)。
4. 多職種連携に関する講義・演習を1年次～4年次に段階的に配当し、5年次～6年次前期での診療参加型臨床実習において実る。さらに6年次後期に多職種連携によるチーム医療を体系的・総合的に整理することにより、基本的資質・能力の養成を図る(多職種が連携するチーム医療)。
5. 地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力養成に向けて演習および診療参加型臨床実習を編成する。また、歯学英语科目に加えて、海外医療時事に関する講義・演習科目および海外臨床研修・実習を実践し、国際的視野の涵養を図る(社会的貢献)。
6. 履修科目の学修達成度は、知識に関しては筆記試験やCBT、技能や態度に関してはOSCE、レポート、ポートフォリオ、チェックリストおよびルーブリック等を用いて評価する。診療参加型臨床実習については、ポートフォリオによる継続的な形成的評価およびコンピテンシー試験で基本的な臨床能力を評価する。グローバルマインド、研究マインドの達成度評価には海外臨床研修の研修報告書や各種学術大会等での発表内容、ルーブリック等を用いた活動状況や達成度から検証する。また、歯科医師として具有すべき知識に関して、その達成度を卒業試験で評価し、臨床実習終了時に技能・態度の総括的な評価を行う。

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

歯学部歯学科では、学位授与の方針の要件を修得し、多職種連携によるチーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した歯科医師を養成することを目標としています。そのため、本学科では、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 歯科医師として医療現場で活躍するという強い意志を持っている人
2. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
3. 生涯にわたって学修を継続し、自己を磨く意欲を持っている人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会および国際社会に貢献するという目的意識を持っている人
5. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人

#### \*基礎学力について

歯学部歯学科では、専門科目でヒトの体の構造と機能を学ぶとともに歯科治療に用いる様々な材料の物性、化学薬品の性質、検査・治療器具の理論を学びます。そこで生物、物理、化学、数学などの科目を理解し、応用できることが入学後の学修成果を高めることとなります。さらに、専門科目を学ぶ際には英語刊行物の理解が必要になることがあり、また、国際化していく医療現場で貢献する準備として英語力が必要となります。ここに示す「基礎学力を有し」とはこれらの科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

### 歯学部学生が修得すべき知識及び能力

1. 人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術
2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力
3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力
4. 歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力
5. チーム医療(保健と医療と福祉)において協調し建設的に行動できる態度と能力

### ● 歯学部カリキュラムの特色

歯学部では、教育内容のガイドラインとなる歯学教育モデル・コア・カリキュラムの導入及び共用試験の実施に伴い、より高度な専門的能力を身につけることをめざして、2003年4月にカリキュラム変更を行い、2009年度に教養教育・人間教育の充実を図るとともに、複数の

学部が共同する医療基本科目を推進し専門教育への円滑な移行が可能となるよう全学教育科目を導入するなど、授業科目を再編した。また、相対基準の導入(2004年)、歯科医師国家試験の早期化(2006年)等による状況の変化にも対応するために教育内容の見直しを図り、2010年度には、歯科医師国家試験出題基準の各領域に沿ったオリジナルテキストの作成により各講義内容を明確なものとし、基礎学力向上を目的とした「総合学力試験」の導入と併せて歯科医師として必要な知識の定着化を図った。また、新たな試みとして全国医歯学系大学8校(岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡歯科大学、福岡大学、九州歯科大学、本学)が連携し、多地点制御遠隔講義システムにより連携校が一斉に授業を受講できる「医歯学統合講義」を導入した。2011年度には補正教育の強化及び基礎学力向上を目的として補正教育3科目を必修化し、授業時間数の取扱いを整合させることを目的とした専門教育科目の一部見直しを行った。2013年度には、授業科目に軽重をつけることを目的とした全学教育科目の一部見直しや、専門導入科目の導入による専門基礎科目履修の円滑化、臨床実習期間の延長及び学外実習・施設実習の導入による診療参加型臨床実習の充実を目的とした専門教育科目の見直しを行った。2016年度には、授業科目の整理統合とともに国際感覚を持った歯科医師の養成を目的とする海外臨床実習及び研修を自由選択科目として位置付けた。2017年度には、全学教育科目の教養科目を選択科目とする全学的な統一に際して、一部科目を専門教育科目に移行するなどの科目の整理を行った。2018年度には、歯科医学の研究に早期から関心を抱けるよう、「歯科医学研究」科目を第1～5学年での配当へと学年の幅を増やした。2019年度には、単位数と時間数の整合性を確保し、適切な修得学年への配当を見直した。

- ① コミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育等の歯科医師として必要な基本的内容について、質的・量的充実を図り、全学年を通じて教育を行うこととした。

第1学年に「医療人間学演習」「コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ」「医療倫理学」、第3学年に「医療コミュニケーション」、第4学年に「歯科医療行動科学」等を配当。

- ② 患者の全人的理解、患者に対する責任感、歯科医師としての倫理観、あるべき態度や価値観を培う等、医療人としての基本的臨床能力を向上させるため、臨床実習に診療参加型のシステムを導入することとした。

臨床実習Ⅰ・Ⅱの期間を合わせて50週程度とし、「臨床実習内容」水準1を最低限の内容として実施している。

- ③ 学生がより理解しやすいよう、従来の科目の枠を越えた統合科目を更に充実させた。

「口腔生命基礎科学」「歯科診療の基礎」等を実施している。

- ④ 専門教育への円滑な移行が可能となるよう、教養教育の一層の充実を図るとともに、補正教育を目的とした科目を必修科目として開講した。

必修・選択の区分を見直し、「医事法学」「コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ」等を必修科目にするとともに、補正教育として「基礎物理学」「基礎化学」「基礎生物学」(現「物理学Ⅰ」「生物学」「化学」)を開講し、3科目全ての履修を義務付けた。さらに、2013年度からは専門導入科目として「人体構造科学」「人体機能科学」を開講した。また、保健と医療と福祉の連携をはかる科目として、「医療薬学概論」(現「医薬品の科学」)「看護福祉概論」を選択科目として開講していたが、多職種と連携(チーム医療)可能な知識と態度を系統的に修得することを目的として、2012年度から両科目を必修科目としたほか、2013年度には「リハビリテーション科学概論」を必修科目として新たに配当した。

- ⑤ \*共用試験の本格実施(2005.12以降)に対応するため、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに該当する専門科目の統合的な積上方式による授業科目を2005年度から取り入れた。

\*共用試験 臨床実習開始前に到達しておくべき学生の能力と適性についての一定水準を確保するために実施する全国共通の標準評価試験。基礎・臨床の知識の総合的理解と問題解決能力はコンピュータを用いた多肢選択形式の客観試験(CBT:Computer Based Testing)で評価し、態度・臨床技能は、医療面接等の実技による客観的臨床能力試験(OSCE:Objective Structured Clinical Examination)で評価する。本学部では、第4学年後期で共用試験を実施している。なお、共用試験の成績は、各大学の総合的な成績評価・進級判定の指標として利用している。2015年度には共用試験対策として少人数制でのローテーション講義を導入した。2017年度には、(公社)医療系大学間共用試験実施評価機構の歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアルに参加し、臨床研修へと繋がる臨床能力の修得状況の測定を行った。

- ⑥ 歯科医学の基礎的研究を奨励し、分析力やコミュニケーション能力等を養うための自由選択科目を2005年度から取り入れた。

自由選択科目として第3学年～第5学年に「歯科医学研究Ⅰ～Ⅴ」(各1単位)を配当。

- ⑦ 歯科医療のグローバル化に対応し、国際感覚を養うための自由選択科目を2016年度から取り入れた。

自由選択科目として第3学年及び第4学年に「海外臨床研修 A・B」(1・2単位)、第5学年に「海外臨床実習 A・B」(1・2単位)を配当。

2018年度には、「海外医療時事問題研究Ⅰ～Ⅲ」を第2～4学年に配当した。

⑧ 歯学部カリキュラム

歯学部(歯学科)

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目 ※下線:専任教員 担当科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考	
						1年		2年		3年		4年		5年		6年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	礒部、井上 ほか	2			30												
				2			30												
				2			30												
	教養科目	人間と思想	礒部		2	30													
		人間と文化	花淵、保岡		2	30													
人間と社会		佐藤(圭)、金盛		2	30														
自然と科学		山口、井上		2	30														
基礎教育	外国語科目	英語Ⅰ	フェン、サトス	1		30													
				1		30													
		英語Ⅱ	塚越、佐藤(圭)、 松本、白鳥	1		30													
				1			30												
				1				30											
		英語Ⅲ	塚越、佐藤(圭)	1				30											
	1							30											
	フランス語	永野、三浦	1		30														
			1			30													
			1		30														
	ドイツ語	阿部	1			30													
			1				30												
			1		30														
	健康・ 運動科学科目	健康・ 運動科学演習	山口、井上、福家	1		30													
				1			30												
情報科学科目	情報処理演習	西牧	1		30														
	統計学	原田	2		30														
自然科学科目	物理学	中野(諭)	2		30														
			2			30													
	化学	堀内(正)	2		30														
			2		30														
	生物学	坂倉、近藤	2		30														
			2			30													
自然科学実験	中野(諭) ほか	4		66	60														
医療 基盤 教育	医療基盤科目	地域連携	-	(2)	30														
		医療倫理	礒部 ほか	2		30													
		多職種連携	三国、向谷地、 齊藤(浩)、鎌田、武 田(涼) ほか	2		30													
				2		30													
				2			30												
				2				30											
2					30														
2						30													

全学教育科目 合計54単位以上修得(うち必修47単位)

\* 単位数欄が( )の場合は、卒業単位に含まない。

歯学部(歯学科)

専門教育科目

授業科目 ※下線:専任教員担当科目	担当	単位数	開講年次・授業時間数												計	備考	
			1年		2年		3年		4年		5年		6年				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
歯学概論	(基礎系分野)(臨床系分野)	2	30	30												60	
歯の解剖学	入江	1	30													30	
歯の解剖学実習	越智 ほか	2		60												60	
人体構造科学	入江、細矢	2	30													30	
人体機能科学	石井、永野	2	30													30	
組織学・発生学	細矢 ほか	5			120	30										150	実習を含む。
解剖学・口腔解剖学	入江 ほか	10			240	60										300	実習を含む。
生理学・口腔生理学	石井 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
生化学・口腔生化学	荒川 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
微生物学・口腔微生物学	永野 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
歯科理工学Ⅰ	遠藤 ほか	1		30												30	
歯科理工学Ⅱ	遠藤 ほか	6			60	120										180	実習を含む。
薬理学・歯科薬理学	谷村 ほか	5					90	60								150	実習を含む。
病理学・口腔病理学	安彦 ほか	5					60	90								150	実習を含む。
臨床口腔病理学	安彦 ほか	2							60							60	実習を含む。
公衆衛生学	千葉(逸) ほか	2				60										60	実習を含む。
口腔衛生学	千葉(逸) ほか	4					60	60								120	実習を含む。
保存修復学	斎藤 ほか	6					60	120								180	実習を含む。
歯内療法	古市 ほか	4							120							120	実習を含む。
歯周治療学	古市 ほか	4							30	90						120	実習を含む。
固定性補綴学	越智 ほか	8					120	120								240	実習を含む。
有床義歯補綴学	越野 ほか	9							150	120						270	実習を含む。
口腔外科学Ⅰ	奥村 ほか	3							60	30						90	
口腔外科学Ⅱ	永易 ほか	3							60	30						90	
歯科矯正学Ⅰ	飯嶋 ほか	2					30	30								60	
歯科矯正学Ⅱ	飯嶋 ほか	2								60						60	実習を含む。
小児歯科学Ⅰ	齊藤(正) ほか	2					30	30								60	
小児歯科学Ⅱ	齊藤(正) ほか	2								60						60	実習を含む。
歯科放射線学Ⅰ	中山 ほか	1						30								30	
歯科放射線学Ⅱ	中山 ほか	2							30	30						60	
歯科麻酔学	照光 ほか	2							30	30						60	
外科・整形外科	青木(光)	1						30								30	
内科学	高橋 ほか	2								60						60	
その他の隣接医学 (耳鼻咽喉科学、眼科学、小児科学、 産婦人科学、皮膚科学、臨床検査学)	耳:西澤、眼:北市、 小:太田、皮:安彦、奥村	2									60					60	
歯科生物学	西出	1		30												30	
医事法学	小畑	1									30					30	
医療コミュニケーション	千葉(逸) ほか	1						30								30	
社会歯科学	千葉(逸) ほか	1								30						30	
歯科医療行動科学	千葉(逸) ほか	1								30						30	
法医・歯学	豊下 ほか	1						30								30	
材料学臨床総合演習	遠藤 ほか	1						30								30	
口腔生命基礎科学	(基礎系分野)	3						30	60							90	
高齢者歯科学	會田 ほか	1								30						30	
障害者歯科学	越野 ほか	1								30						30	
口腔インプラント学	越智	1								30						30	
臨床基礎学	(基礎系分野)	4										120				120	
医歯学統合講義	安彦 ほか	1									30					30	
臨床実習Ⅰ	長澤 ほか	35									945	630				1575	
臨床実習Ⅱ	長澤 ほか	8											342			342	
歯科医学総合講義Ⅰ	遠藤 ほか	11								330						330	
歯科医学総合講義Ⅱ	遠藤 ほか	38											780	360		1140	
歯科医学研究Ⅰ	遠藤 ほか	(1)	(30)													(30)	
歯科医学研究Ⅱ	遠藤 ほか	(1)		(30)												(30)	
歯科医学研究Ⅲ	遠藤 ほか	(1)				(30)										(30)	
歯科医学研究Ⅳ	遠藤 ほか	(1)							(30)							(30)	
歯科医学研究Ⅴ	遠藤 ほか	(1)								(30)						(30)	
海外医療時事問題研究Ⅰ	佐藤(圭)	(1)		(30)												(30)	
海外医療時事問題研究Ⅱ	佐藤(圭)	(1)				(30)										(30)	
海外医療時事問題研究Ⅲ	佐藤(圭)	(1)							(30)							(30)	
海外臨床研修A	安彦 ほか	(1)						(30)								(30)	
海外臨床研修B	安彦 ほか	(2)						(60)								(60)	
海外臨床実習A	安彦 ほか	(1)								(30)						(30)	
海外臨床実習B	安彦 ほか	(2)								(60)						(60)	

専門教育科目229単位修得

\* 単位欄の( )は自由選択科目であり、卒業単位には含まない。